

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：経路選択（１）	
日付：１１月　　３日　（月）曜日、セッション時間：　９：００～１０：３０	
司会者名（所属）：三輪富生（名古屋大学）	
討 議 内 容	セッション全体： 本セッションで発表された３編の研究は、いずれも首都圏の高速道路を対象としており、実際の観測交通量データや経路選択データ、もしくは現実に近い状況を設定した実験データを用いた研究であった。このため、分析手法に加え、データの妥当性や分析上の仮定についても多くの議論が交わされた。また、いずれの研究も経路選択行動を分析の対象としているが分析手法は大きく異なっており、経路選択行動や関連した研究における分析方法について幅広い議論が交わされた。
	（発表番号） 発表者名（所属）：（１８５）小根山裕之（首都大学東京大学院） 大規模な道路整備（圏央道）前後の交通量観測データを比較することで交通流の変化を分析し、さらに、交通シミュレータを利用することで経路交通量の変化についても分析を行っている。ここでは、供用直後のデータ期間は交通状況が定常化する前の過渡期ではないか、および誘発交通を考慮しないことの妥当性について質問がなされた。これに対して、新規供用区間が短く、ドライバーの経路選択行動の短期的変化によって大部分の交通状況変化がもたらされているとの見解が示された。ただし、圏央道の整備によって LOS がどのように変化したか、渋滞時間の減少などの整備効果の分析については今後の課題であるとされた。
	（発表番号） 発表者名（所属）：（１８６）上出祐次（パシフィックコンサルタンツ株式会社） OD 交通量の動的推定において、未知変数を減少させることで計算負荷を減少させることを試みられている。経路選択行動モデルは首都高速にて収集した実際の経路選択行動データから推定を試みているが、修正の余地が残されており今後の進展が期待される。また、通常の OD 交通量予測手法と比較した場合の Unscented カルマンフィルタの利点について議論が交わされた。Unscented カルマンフィルタは、いかなるシミュレータにも適用が容易であること、また初期値にそれほど依存せず比較的安定的に解を得ることができる、といった利点を有するとのコメントが示された。ただし、提案手法による計算負荷削減量の検証については今後の課題であるとされている。
	（発表番号） 発表者名（所属）：（１８７）辻大樹（いであ株式会社） ドライビングシミュレータ（DS）を用いて高速道路上の情報板と経路選択行動との関係を詳細に分析されている。特に、情報板に示された情報を参考にした場合の経路選択行動の精度（正しく最短経路を選択できたかどうか）について、主観的判断と実際の精度の差異に着目した分析がなされている。ここでは、提供する情報の内容や情報の精度の設定について、どのように設定することが現実的なデータ収集を可能にするかについての議論が交わされた。また、正しく最短経路を選択させるための情報板の役割について分析、考察がなされているが、経路選択時の混乱を避けるためには、容易な判断を可能にする情報板のあり方も検討するべきとの指摘がなされた。